



あつき君の思い出

校長 越智 宏明

9月14日に行われた体育祭には、暑い中、大勢の保護者、地域の方のご来校をいただき、心より感謝いたします。お蔭様で大きなトラブル等もなく、無事に閉会することができました。

今回の体育祭、とにかく生徒たちの楽しそうな表情が印象的でした。勝ち負けにこだわるのはもちろんですが、それ以上に、「このクラスの仲間たちと思い出に残る体育祭にしたい!」という思いが溢れていた気がします。運動の得意な生徒もそうでない生徒もとにかく全力を尽くし、それを多くの仲間が励まし、賞賛する姿が随所で見られ、こちらも元気をもらうことができました。

運動の得意な生徒もそうでない生徒も、と言いましたが、私、実は小学校時代、運動が大の苦手でした。足も遅く、何よりリズム感が全くなかったため、みんなで踊るダンスは苦痛以外の何ものでもありませんでした(ちなみにダンスは今でも苦手です)。

小学校1年生の時の話です。運動会で踊るダンスの学年練習を行っていた際、あまりにも私が周囲と合わせられないのに業を煮やした担任が、「越智君は、外でみんながどう踊っているか見ていなさい!」とダンスの輪から外されてしまったことがあります。校庭の隅のイチョウの木の下で私は悔しくて泣いていました。休み時間、そんな私のもとに教室で私の前の席だった「あつき君」という男の子が寄ってきました。あつき君は、「誰にだって苦手はあるからさ、一緒に練習しよう」と言って私の前で軽くステップを踏み出しました。それを見ていた周りの女子たちも「そうだよ、頑張れば越智君にもできるよ」と、イチョウの木の下で小さな輪を作って、「みーぎ、ひだり、もひとつみぎで、くーるっと回って、とんとんとん」と可愛らしい掛け声をかけてくれました。私は、みんなの優しさが嬉しいのと、自分自身がふがいないのと、踊りながら泣き出してしまったことを覚えています。

あつき君は、子どもらしくないというか、常に物事の本質を見て、正しい指摘ができる子でした。教室が騒がしかった時、多くの子が「うるさいよ」とか「静かにしなよ」と言っていると、あつき君は、さっと立ち上がり、「みんながめいめいにうるさいとか静かにしなよとか言うことで余計にうるさくなるんだよ。まず自分が黙ることで、クラスが静かにしようって雰囲気になるんだよ!」と大人顔負けの意見を言うことができました。また、クラスの中で笑いものにされそうな子(ダンスから外された私が正にそれでした)がいると、さっとその子のそばに寄ってその子が活躍できる場面をつくってくれました。自分だけが行事を楽しむのではなく、みんなで楽しむためにはどうすればよいか、得意不得意のある中でどうすればみんなの心が一つになれるか、私も教師となって数十年、常にこのことには心を配っていますが、小学校1年生のあつき君のさりげない心配りには、今なお及ぶことができません。

あつき君とは、クラスの中でも大変に仲良くさせてもらい、しょっちゅうお互いの家を行き来する仲でした。あつき君は当時としては珍しい日本ハムファイターズの大ファンで、いつも日本ハムの帽子を宝物のようにかぶっていました。その後、二人とも家庭の都合で、私は大東小に、あつき君は上木崎小に転校しました。転校後もお互いの家が近かったため、よく一緒に遊んでいたのですが、やがて中学、高校と進学するにつれて疎遠となり、もう何十年も会っていません。私の記憶が確かなら、あつき君の家は、現在の大原中学校の近くで、彼は大原中学校に進学、地方の国立大学卒業後、お医者さんになったはずなのですが…。もしそうなら、きっと今でも多くの人から尊敬される人生を歩んでいることでしょう。

自分が楽しむだけでなく、全ての人を楽しませる。そのあつき君の思いは、後輩である今の大原中学校の生徒たちにもしっかりと受け継がれていると思い、余計嬉しく感じた今年の体育祭でした。



雲一つない青空の下、例年にない暑さの中で行われた体育祭。太陽に負けたくない皆さんの笑顔が輝き、生徒のその熱さが季節外れの暑さを吹き飛ばしてしまいました!